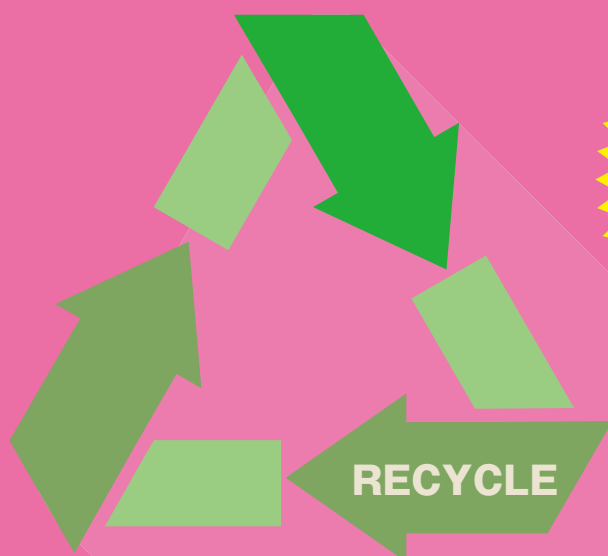


vol.018 DECEMBER, 2019. [株式会社正文舎] 会社案内

With
spos



《不定期連載》
お客さまトピックス
Review of CLIENTS

今回のお客さまは
**アカシヤ
俳句会** 様

正文舎のアレやコレ。 ————— 今月のキーワードは「R」

「株式会社 正文舎」 **A** to **Z**
RECYCLE~近年初のイベント「紙フェス!」

.....
New&Goods — 勇気を出して挑戦すると、新しい世界が見える。

.....
Focus on JAPANESE ————— みかん、ミカン、蜜柑

.....
What's NEW! ————— ネオンカラー登場!



株式会社 正文舎のすべての情報は、WEBサイトでご確認ください。
バックナンバーもこちらから。



正 文舎初のイベント「紙フェス!」を11月18日～24日の1週間にわたって開催しました。

「紙フェス!」とは、弊社の印刷工場で余った紙の廃材を欲しい方々にご提供しようというイベントで、以下のことを行いました。

- ・白い紙や不要となった封筒の無料提供
- ・色紙と特殊紙の販売
- ・弊社オリジナルグッズの販売（メモ帳・ぶらねっとクン型抜きおり・カレンダー他）

正文舎では「紙商材プロジェクトチーム」のメンバーが中心となって、これまでに保育園や幼稚園に、お絵描き用の紙をお譲りしたり、『社員手帳』や『極厚メモ帳』を作ったりしていました。もっと面白いことは出来ないかとメンバーで相談していた時、ちょうど音楽のロックフェスの季節だったので「紙のフェスをやろう!」ということになりました。

メンバーの大半は、普段は制作の仕事をしているため、企画や営業の経験が無く、準備期間は手探りの連続でした。紙関連のイベントが札幌で開催されていれば、そこに足を運んで参考にした。

このようなイベントは、近年の正文舎では前例の無いことで、初めは色々と不安もありましたが、ひとりのメンバーの「前例が無いからこそ何をやってもいい」との言葉に勇気が出ました。また、ぶらねっとクン（弊社公式キャラクター）を使って、遊びながら準備したのも良かった。ぶらねっとクンを面白くさせることに熱中していると、いつの間にか“お祭り”のような感覚になって、皆で楽しんでいました。

そしてイベント本番。肝心のお客さまは来てくれるのだろうか？と少し心配しましたが、蓋を開けてみると、嬉しいことに、連日お客さまがお見えになりました。あらかじめイベントの開催をお知らせしていたお客さま以外にも、SNSで知ったという方、通りすがりにポスターを見て来られた方など、結果60名の方にご来場いただきました。

意外だったのは正文舎がある札幌市白石区菊水周辺のお店に設置したポスター・チラシの効果でした。これを見て来たという方が大半だったのです。地域の皆様と紙をととしてコミュニケーションがとれたことは、とても嬉しい出来事でした。

白い紙はお子様のお絵描きに、色紙はクリスマス・お正月の紙工作にと購入されるお客さまが多かったです。紙フェスに出していた紙は、すべて印刷工場から出た廃材です。これらの紙が欲しい人の

「株式会社 正文舎」 **A to Z**

RECYCLE

Text & Photo_Honma Kazumi

近年初のイベント「紙フェス！」

ri:sa'ikl [動詞] 1.廃物を再生利用する 2.～を循環処理し使用する



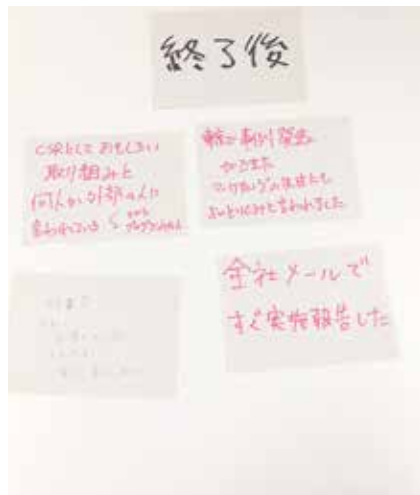
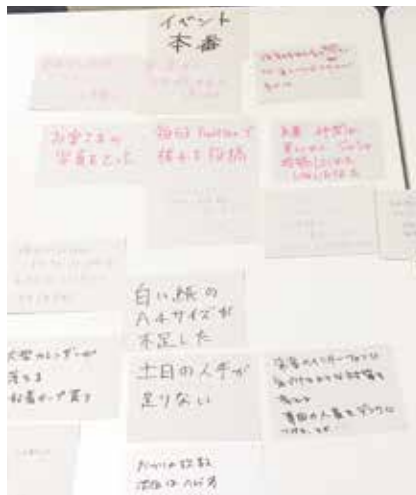
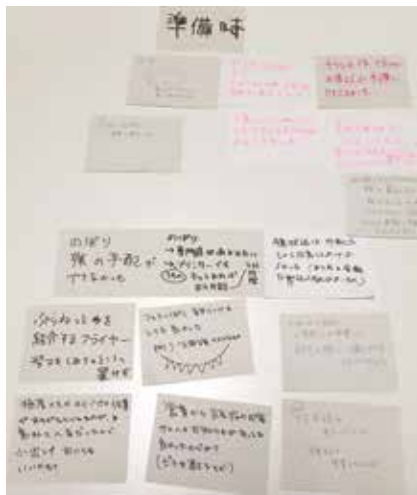


手に渡り、お役に立てて本当に嬉しく思っています。紙もきっと喜んでいることでしょう。

「紙フェス!」が終わった2週間後、プロジェクトチーム以外の社員も自由参加にした「振り返りミーティング」を行いました。今回初めて「紙フェス!」を開催してみて気付いた点が色々あったので、弊社オリジナルのメモ帳を使い、思いつく限りの事柄を書き出す“ブレインストーミング”にしました。

「良かった点」はピンクのペンで、「問題だった・改善すべき点」は黒のペンで書いてテーブルに並べます。1点ずつ紙を読み上げて、意見や感想を話し合いました。

「土日の人手が足りない。もう大変だったよね〜!」
 「もっと早めの告知。ごもっともです…。」
 「毎日twitterで様子を投稿した。これは楽しくできたよね♪」



この方法は、全員で意見を共有でき、情報の整理もしやすかった。「良かった点」は継続し、「問題だった点」は改善して、次回はさらにブラッシュアップさせていきたいと思います。

第2回「紙フェス!」の予定はまだ立っていませんが、多くのお客さまから「ぜひ次回も開催してほしい」とのお声をいただきました。私たちスタッフも大変やりがいを感じ、今後も続けたいと考えています。

お越しいただいたお客さま、ありがとうございました。
 そしてポスター・チラシの設置にご協力頂きました菊水のお店の皆さま、ありがとうございました。

次回の「紙フェス!」の開催につきましては、詳細が決まり次第、弊社ホームページ等でお知らせいたします。

15

正文舎 New&Goods

Text & Photo_ Shirafuji Saori

勇気を出して挑戦すると、新しい世界が見える。

先 月号でご案内した、紙のイベント「紙フェス!」が大成功で終わりました。

11月18日（月）～24日（日）の1週間、会社の多目的ホールで開催していた「紙フェス!」に、のべ60名のお客様にきていただきました。有料で販売した色紙や特殊紙もたくさんお買い上げいただき、本当にありがとうございました。

「紙フェス!」に果たしてお客様は来てくれるのだろうか、ちょっと心配もしていました。お客様が来なかった日は一度もなく、それがとてもうれしかったです。

「紙フェス!」をどこで知ったのかお客様に聞いてみると、近隣のお店に貼ってもらったポスターを見てくれた方が意外に多かったのです。中には、お買い物帰りに、会社の玄関に貼ったポスターを見て、ふらっと寄ってくださった方もいました。勇気を出してお店の方にポスター掲示をお願いしたスタッフに感謝しています。

「紙フェス!」は今までにない取り組みだったと思います。

正文舎ではロスとなってしまった紙を、お子さんたちが喜んで持って行ってくれる姿を見るのも新しいこと。営業スタッフでないと、モノが売れないとか集客できないと考えるのは思い込み。正文舎の公式キャラクター「ぶらねっとクン」が人気者だと知ったのは喜び。日々の制作業務では体験できないようなことが、次々と起きました。

担当したスタッフは、買ってくださった色紙をとめる輪ゴムを用意したり、A3サイズの束は持ち帰りが大変とA4サイズも用意したり、お客様の声を聞きながら日々小さな改善をしていました。お客さんにどうしたら喜んでもらえるのか考えて仕事をすることは、もっとも大切なことです。「紙フェス!」を通して経験させてもらえたことが最大の成果ではないかと思っています。

ご提供できる紙はあくまでも予備または訳アリの紙になるので、次の開催は未定です。どうしても余ってしまう紙を大事にとっておいて、地域のみなさまに喜んでもらえるような「紙フェス!」を続けていきたいと思っています。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



常	万	や	天
に	が	っ	災
携	一	て	は
行	に	く	忘
を	備	る	れ
。	え	。	た
	、		頃
			に

防災カード

Text_Narita Sadayuki



Photo_Narita Sadayuki

正 文舎には、就労環境の改善や売上促進企画などを会社
に提案する「業務改善提案」という人事評価にも組み込まれている制度がある。先日そこに提案・承認され、実際に制作された「防災カード」が社員全員に配付された。

そこで、提案者である製版課 岸主任に話を聞いた。

——実際にできあがってどうですか？

岸：私が欲しいと思った物を、みんなにも手にとってもらうことができてよかったです。カードの中には役員・管理職の連絡先の他、災害用伝言ダイヤルの案内などを載せました。全体のデザイン・社屋外観のゆるい手書きイラストは製版課の浦田課長です。小さなカードに必要な情報を収めるために、デザインを工夫してくれました。いざという時に役立つものになったと思います。

——これを創ろうと思ったきっかけは何ですか？

岸：昨年9月の北海道胆振東部地震で連絡が取れなかった人がいたことです。連絡先は会社に行けばもちろんわかるのですが、あの時は特に入社間もない人の連絡先がわからず、必要な情報を共有することができませんでした。出社するのか？しないのか？それよりもまず、全社員の安否を確認しなければなりません。地震の後は全社的に防災意識が高まり、課内ではLINEでグループを作ろうという案も出ました。ですがそもそもLINEが使えない携帯の人もいて…だったら紙!いつも持ち歩いている財布に、連絡先が書いてあるものを入れておけば、必要なときにすぐに取り出すことができます。会社でメール登録をしていない人は、それを見て「自分から上長に連絡をしてください」という一文を入れました。今後新しく入社してくる方たちにも渡してほしいと思います。それと以前、会社の長期休業期間中に社員が急病で倒れ、ご家族が上司に連絡を取りたくても、会社の代表電話以外の連絡先が分からなかったということもありました。同居しているご家族に「こんなカードが財布に入っているよ」と伝えておくのもいいかと思っています。

——こだわりのポイントは？

岸：2つ折りのシンプルなカードにしたことです。何重にも折られた分厚いものと、今時のコンパクトなお財布や手帳には入れにくいかと思いました。使用する紙にもこだわりました。耐水性があり破れにくい「ユポ紙」という合成紙です。ユポ紙はその特性を活かして、ハザードマップや診察券、屋外用ポスターなどに使用されている紙で、当社のデジタルプリンタで出力することができます。

——一番苦労した点はどこですか？

岸：完成までに時間が掛かりました。正文舎の防災対策の一環として提案したものの、地震で大変だった記憶や防災意識はどんどん薄れ…なかなか取り掛かれず…完成してほっとしました!

——これを使う事態にならないことに越したことはないですが、災害はいつ起こるかわかりません。万が一の時のために常に持ち歩こうと思います。本日はありがとうございました。

まめ

にほんごの知識
Text_Kurita Miyuki

12

③ みかん、ミカン、蜜柑

冬 到来。休日は、こたつに入ってテレビ見ながらみかんばかり食べてます、なんて方もいらっしゃるかも。ところでみかんって、みかん？ミカン？それとも蜜柑？

以前、『送り仮名』の回で、「表記揺れ」を取り上げたことがありました。送り仮名と同様、同じ文章内では、かな、カナ、漢字のどれを使うのか、統一するのが良さそうですね。

果物や野菜には“なし、ナシ、梨”のように三種類の表記が存在するものが多いです。外来種で漢字がない、もしくはあっても一般的でないものは「グレープフルーツ」のようにカタカナのみですが、不思議なのは、漢字があるのに、カタカナやひらがなの表記も一般的に使われているということです。

たとえばこのコラムのタイトルの「にほんご」は、やわらかい感じを出すためあえてひらがなにしています。でも、公的な文章で大人がひらがなで書いたら、ちょっと恥ずかしいですよ。ところが果物の場合は「なし」とか「ぶどう」とか、大人が書いても特段違和感がありません。何故でしょうか。参考に、NHKの基準^{*1}を見てみましょう。

動物や植物（含む野菜）を表す漢字が常用漢字表にあれば漢字。なければひらがなで書きます。学術的な場合は、カタカナで書きます。



確かに、果物の漢字は割合難しいものが多いです。檸檬、葡萄、林檎とか、なかなか咄嗟に書けません。そこで難しい漢字は自然とひらがなを使うことになりそうです。その流れで梨や柿のような比較的簡単な漢字でも、ひらがなで書くことに違和感がなくなったのかもしれない。そしてカタカナを使うのは学術的な場合ということで、かなりスッキリしてきました。ただ、ひらがなでなくあえてカタカナを使うのは、学術的な場合だけでなく、文中の助詞や助動詞などのひらがなと、果物や野菜の名称が区別しづらくなるのを防ぐためもあるといえます。たとえば、

①秋はなしやかきやくりがおいしい。

②秋はナシやカキやクリがおいしい。

②の方が果物の名前がはっきり区別できますね。

いずれにしても厳格な決まりはありませんから、イメージによって自由に使い分ければいいのだと思います。

校正の現場から。

「一段落」と書いて何と読みますか。「ひとだんらく」と読む方がいるのは、「一仕事」「一芝居」「一安心」「一工夫」「一苦労」「一騒動」など同じ語形をもつことばに【ヒト〜】と読む語が多いことに加え、似た意味をもつ「一区切り」が【ヒトワギリ】と読むこととも関係がある^{*2}ようです。

「ひと〜」を許容する辞書もありますが、一般的には「いちだんらく」ですね。

参照:アルクHP/日本語Q&A/ことばの書き方(文字表記)<https://www.alc.co.jp/jpn/article/faq/01/8.html>

^{*1} NHK放送文化研究所<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/gimon/003.html>より引用

^{*2} NHK放送文化研究所<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/gimon/184.html>より引用

What's New! “蛍光色”ネオンカラー登場! 「ネオンピンク」と「ネオンイエロー」の導入で デジタル印刷がさらに素敵に!!

本 誌2018年11月号（Vol.005）で紹介したデジタル印刷機RICOH Pro C7200sに、この度、蛍光色の「ネオンピンク」と「ネオンイエロー」の2色の『スペシャルトナー』を新たに導入。

正文舎のデジタル印刷は、先に導入済の「ホワイトトナー」「クリアトナー」と合わせて、全4色*の『スペシャルトナー』に対応。従来の印刷基本4色（プロセスカラー）だけでは難しい、さまざまな表現が可能となり、印刷物をますます素敵に仕上げます。

なお、今月号のこのページと表紙・裏表紙は、ネオンピンクを使用しています。

RICOH imagine. change. Pro C7200s

連続プリント速度	A3（タテ）	モノクロ/フルカラー:49枚/分
	B4（タテ）	モノクロ/フルカラー:56枚/分
	A4（ヨコ）	モノクロ/フルカラー:85枚/分
	B5（タテ）	モノクロ/フルカラー:85枚/分
解像度	読取時	600dpi
	書込時	2,400dpi×4,800dpi
階調	調	256階調
変倍率	率	25～400%
用紙厚	紙厚	45～309kg
スペシャルカラー		ホワイトトナー／クリアトナー ネオンイエロー／ネオンピンク

*スペシャルトナーは1回の印刷に1色のみ使用可能です。



※印刷の様子が動画で確認できます。



Review of CLIENTS

合同句集「アカシヤ並木」を刊行——

俳誌 アカシヤ通算八〇〇号を記念して

わたしたちのお客さまの、今。

アカシヤ俳句会 様

Photos_Adobe Stock

北海道を中心に、遠くは兵庫県にまで会員を有する「アカシヤ俳句会」という俳人の会があります。会員の句が紹介されている俳誌『アカシヤ』を毎月刊行されており、昨年その800号を記念し、合同句集『アカシヤ並木』を刊行され、正文舎が制作のお手伝いをさせていただきました。

記念作品集ということもあって、表紙、背表紙はクロス（布地）の角背にし、タイトル部分には金の箔押しを施しています。また、見返しには「レザック66のらくだ」を使用し、表紙との統一感をもたせています。扉には、和紙のような雰囲気「しこくてんれい」をはさみ、全体的に渋く、丈夫で上品な仕

上がりとなっています。巻頭言やあとがきを含め、全120ページ程の冊子になりました。ページをめくると、五七五の句が丁寧に並べられています。

季節の移り変わり、生活の記録、心の動きを、会員さんたちの細やかな視点によって風景や物に託され表現された句は、普段何気なく感じている情景や情緒の魅力を再発見させてくれます。

北海道に初夏を知らせてくれるアカシヤの花のように、この『アカシヤ並木』も、日々の暮らしにあるささやかな魅力に気づかせてくれる、そんな素敵な一冊となっています。



〈仕様〉本文120頁・糸がかり角背上製本
表 紙：ワールドクロス エレガントスラブ No.541-27すすたけ
扉：しこくてんれい 白
見返し：レザック66 らくだ
本 文：淡クリームキンマリ

正文舎とアカシヤ俳句会様とのかかわり

俳誌「アカシヤ」は、今から74年前の1945年に第1号を創刊して以来、2020年1月号で通算817号を迎えます。正文舎では、1965年（当時：正文舎印刷株式会社）から現在に至る54年に渡り、アカシヤ刊行のお手伝いをさせていただいています。昭和、平成、令和と3つの時代をまたぐお付き合いに感謝です。2010年には700号を記念し、感謝状および記念品もいただいています。



Review of CLIENTS

お客さまトピックス

Text_Tokunaga Moe
Photo_Himukai Atsushi



彩りに疎雨を加へし春の山

百までに間のある齡あたたかし

生涯を読み切る一句新樹光

夢はみな叶へられさう春の空

アカシヤ俳句会

〒053-0042 苫小牧市三光町5丁目21-57
[TEL・FAX]0144-34-6252

《 会社概要 》

社 名：株式会社 正文舎

代 表 者：代表取締役 岸 昌洋

創 業：昭和 9年 5月 1日

設 立：昭和27年 5月15日

資 本 金：1,400万円

所 在 地：[本 社]
〒003-0802
北海道札幌市白石区菊水2条1丁目4番27号
TEL.011-811-7151
FAX.011-813-2581

[東京オフィス]
〒107-0051 東京都港区元赤坂1-1-7
オリエント赤坂モートサイド805
TEL.03-5413-4016
FAX.03-5413-4017

取扱い品目

印刷事業

【商業印刷物】

[情 報 系] パンフレット・リーフレット・カタログ・チラシ、会社案内、ポスター、カレンダー、PR誌、取扱説明書（マニュアル）

[物流資材系] 各種封筒、包装紙、シール・ラベル

【出版印刷】

[書 籍] 名鑑、各種名簿、記念誌、単行本

[雑 誌] 週刊誌、月刊誌、専門誌

[新 聞] 各種業界新聞、学校新聞

[学 参 系] 教科書、辞典、問題集、生徒会誌

[自 費 出 版] 同人誌、自分誌、詩集、エッセイ、写真集

【業務用印刷】

伝票・帳票各種、オンデマンド／バリアブル、小ロット印刷、賞状（学位記・証書等）印刷、可変宛名印字、ダイレクトメール

情報メディア事業（WEBサクセス） <https://www.websuccess.jp/>
各種WEBサイトの企画・制作・運営管理、各種データベースの企画・構築・運営管理、クロスメディア展開の企画・構築・運営管理

賞状net事業

賞状・表彰状等のインターネット通販サイトの運営

私たちは、令和元年5月1日、創業85周年を迎えました。



メディア・ユニバーサル・デザイン協会認定のメディア・ユニバーサルデザイン・アドバイザーの資格を持った制作者が多く在籍しています。



グリーンプリンティングの認定を受けています。



P-00023

全日本印刷工業組合連合会によるCSR認定制度の基準を達成しています。



IS 618840/ISO 27001

ISO/IEC 27001:2013 JIS Q 27001:2014
情報セキュリティマネジメントシステム
の認証取得をしています。



ぶらねっと
©2008 syoubunsysa.inc

★ぶらねっとくんは、正文舎の業務や取組を紹介するときにどこからともなく現れるオリジナルキャラクターです。

情報をクリエイト

株式会社 正文舎

札幌本社 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目4-27
TEL.011-811-7151 / FAX.011-813-2581

東京OFFICE 〒107-0051 東京都港区元赤坂1-1-7 オリエント赤坂モートサイド805
TEL.03-5413-4016 / FAX.03-5413-4017

<https://www.syoubunsysa.co.jp>

※本誌は余剰在庫紙を使い、デジタル印刷機 Ricoh Pro C7200sにおいて、オンデマンド印刷・インライン製本をしています。

Publisher ■ Kishi Masahiro
Creative & Art Director ■ Narita Sadayuki
Chief Editor ■ Ebina Mikiko
A to Z Writer & Editor ■ Honma Kazumi
Topics Writer ■ Narita Sadayuki
New & Goods Writer ■ Shirafuji Saori
Focus on JAPANESE Writer ■ Kurita Miyuki
Review of CLIENTS Writer & Editor ■ Tokunaga Moe
Photographer ■ Himukai Atsushi
Digital Printing ■ Narita Sadayuki

CR labo in SYOUBUNSYA